

令和4年6月1日  
町民生活部 生活環境課

## 「阿見町ゼロカーボンシティ宣言」

### 1. 宣言の主旨

「ゼロカーボンシティ宣言」とは、都道府県や市町村が「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指すことを表明することです。

阿見町においても、脱炭素社会を実現するための指針として、「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、町、町民、企業が一丸となり、町全体として温室効果ガスを減らす対策に取り組んでいきます。

### 2. 「阿見町ゼロカーボンシティ宣言」の要旨

阿見町は、日本第二位の広さを誇る霞ヶ浦の南側に位置し、湖岸に面した稲敷台地と谷津田からなる水の豊かな町です。

このような、豊かな自然環境に恵まれるとともに、活力のある産業と健やかな暮らしがバランスよく発展しているところが、阿見町の魅力です。

この素晴らしい阿見町を未来の子供たちに引き継いでいくために、今を生きる私たちが決意をもって、2050年までに、二酸化炭素排出実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指すことを宣言します。

### 3. 今後のスケジュール

6月7日（火） 町議会定例会に上程

6月21日（火） 議決後、町長による宣言の読上

### 4. 主な環境政策の取組

- |                           |                |
|---------------------------|----------------|
| (1) 「阿見町環境基本計画」           | H23～R2         |
| ・阿見町環境保全基本調査              | ※町民主体による自然環境調査 |
| (2) 「第二次阿見町環境基本計画」        | R3～R12         |
| ・ゼロカーボンシティ宣言              |                |
| ・ゼロカーボンシティ実現のためのシンポジウムの開催 |                |
| ・自然ガイドを利用した勉強会や自然観察会の開催、等 |                |

以上



## 阿見町ゼロカーボンシティ宣言（案）

気候変動により、国内各地で記録的な高温や激甚な気象災害が発生し、わたしたちの生活や企業の活動へのリスクとなる危惧が高まっています。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書では、温暖化の要因は人為的なものである可能性が極めて高いと評価され、「2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロとする必要がある」ことを示しました。

阿見町は、日本第二位の広さを誇る霞ヶ浦の南側に位置し、湖岸に面した稲敷台地と谷津田からなる水の豊かな町です。台地周辺の山林からの湧き水が、池や田んぼ、水路を潤し、河川を経て、霞ヶ浦に注いでいます。また、さまざまな生きものが、河川や山林などを通して霞ヶ浦と行き来をしているなど、豊かな自然環境に恵まれるとともに、活力のある産業と健やかな暮らしがバランスよく発展し、阿見町の魅力を高めています。

このような素晴らしい阿見町を未来の子供たちに引き継いでいくために、今を生きる私たちが決意をもって、2050年までに、二酸化炭素排出実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指すことを宣言し、次の取組を推進します。

- 1 “あみの自然”を活かした再生可能エネルギーの利活用など、自然と共生するまちづくりを進めます。
- 2 霞ヶ浦や平地林・農地などの“あみの自然”の多面的機能を守り、育て、気候変動の緩和と適応を図っていきます。
- 3 5Rの推進、地産地消と環境にやさしい農業の推進、食品ロス対策など資源を大切に持続可能な循環型社会づくりを進めます。
- 4 “あみの自然”を楽しむライフスタイルづくりなど、省エネルギーや脱炭素に向けたライフスタイルの見直しや技術の普及と対策を進めます。
- 5 町民、事業者、協力団体と連携を図り、地域、家庭、職場での環境学習や体験学習など『あみの自然大好きプロジェクト』を進めます。

令和 4年 月 日

阿見町長 千葉 繁